

衛生管理に係る実践事例



推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



品川区立台場小学校

【実践の概要】

- ウサギが快適に生活できるよう、飼育委員が中心となって活動をしています。毎日、餌を与え、小屋の掃除をしています。
- 飼育委員会では、委員会が発足すると、学校担当獣医師に来ていただき、飼育のポイントについてレクチャーを受けています。
- 飼育委員会の児童は、学校担当獣医師に教えていただいたことをもとに、責任をもってお世話をしています。



学校担当獣医師による
ウサギの健康診断

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ウサギが、健康で安心して生活できるように、ウサギの健康診断、飼育環境、えさについて、指導・助言を頂いています。
- ウサギの体重測定、糞の状態の観察など、健康状態のチェックをしていただいています。
- えさは、ペレットだけでなく、牧草を与えると良いことを教えていただきました。

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童は、学校担当獣医師の助言を受け、「餌を与える・小屋の掃除をする」だけの活動ではなく、ウサギを大切にしたい飼育活動に取り組んでいます。
- 小屋（ゲージ）の掃除をするときには、糞の様子に注意することを心掛けています。
- ウサギを驚かせないように、静かに接しています。
- ウサギに与える牧草を栽培しています。
- 低学年の児童が、ウサギを見に来たとき、静かに見ることや、優しくなでてあげることを教えています。
- 学校担当獣医師の助言を頂いたことで、ウサギの世話に対する、自信と責任感が養われています。



大田区立赤松小学校

【実践の概要】

- 生活科「生きもの 大すき」の時間を、6月、7月、9月、12月、2月に1回ずつ計5回実施しました。
- 4月から11月までは2年生、12月からは1年生がモルモットの飼育を行っています。
- 今年度も、学校担当獣医師の助言を受けて、飼育日誌をつけるようにしました。
- 元気があるか、エサを食べているか、糞ふんの状態などを観察項目にして、日々の飼育活動に生かしています。
- 11月の飼育委員会にて、ウサギの飼育について学校担当獣医師から指導を受けました。



モルモットのつめの切り方の指導

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 生活科の時間では、モルモットの適切なえさの量や主食を牧草にするよう助言を頂きました。
- 夏季休業前に猛暑対策について指導を受けました。長期休業中における保護者ボランティアによるモルモットのホームステイでは、えさや環境についての助言を生かして保護者と連携を図り進められました。
- 飼育委員会では、これまでの飼育活動における児童からの質問、飼育における改善について答えていただく機会を設けました。また、ウサギ小屋の環境改善と猛暑や防寒の対策について助言を頂きました。

【児童の反応】

- 生活科の時間では、飼育日誌の分担を設け、爪の伸び方、目や糞ふんの様子まで丁寧に観察するようになりました。
- 飼育委員会では、長期休業中など、ウサギにとってストレスが蓄積しないようウサギ小屋の環境を考えながら、児童が主体的に飼育活動を行っていました。



国立市立国立第二小学校

【実践の概要】

- 主に飼育委員会が世話をしているウサギの管理・飼育方法について学校担当獣医師の助言を得て、ウサギにとって最適な飼育方法を実践しました。



ウサギ小屋を見ながら
飼育の仕方を指導してもらいました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ウサギの飼育環境を学校担当獣医師に確認してもらい、助言を得ました。ラビットフードと干し草の適当量の確認方法や糞尿の始末の仕方を教わりました。
- 伸びすぎる爪の切り方を実践して指導してもらいました。
- 夏の暑さや冬の寒さへの適切な対策を講じることもウサギの健康維持に大切であることも教わりました。

【児童の反応】

- 食餌や糞尿の始末について教えてもらったことを実践し、これまで多量に与えすぎて廃棄されていた餌を減らしたり、飼育舎の掃除の仕方を変えたりするなどしました。
- 気にしていなかった爪の状態を確認して、伸びすぎていたら切れるように爪切りを常備しました。
- 夏の暑さ対策としては、飼育ケージを購入し冷房の効いた室内に日中は置くことにしました。冬の寒さには、透明なビニールシートを飼育舎の全面に貼り、風を防いで日光は通すようにしました。これまであった舎内の寒さ除けの小屋がだいぶ暖かくなりました。



武蔵村山市立第一小学校

【実践の概要】

- 1年生の児童は、学校担当獣医師から、ウサギの抱き方や世話の仕方について学びました。動物に触れた後は、手洗いを行うこと、ウサギのケージを清潔に保つことの重要性について指導を受けました。



抱き方を教わりそっとウサギを抱いている1年生の児童

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師から助言を受け、細かに飼育動物の観察や観察記録を付けることを勧められました。実際に記録を付けることによって、体調管理や衛生管理に役に立ちました。



生活科の学習でウサギと小屋の観察をする1年生の児童の様子

- アルコールの消毒スプレーを常備し、動物の世話をした後は、使用を推奨することで、保護者からの安心感を得ることができました。

【児童の反応】

- 学校担当獣医師の助言で、タオルを使用して、直に動物に触れないように配慮し、ふれあい活動をする場所を換気のよい場所にするなど、工夫を行いました。
- アレルギーのある児童でも、関わり方を工夫することで、動物飼育活動に関わることができました。

- 手洗いや消毒の励行は、日常の衛生管理と同じように気を付けることを児童も学んでいました。
- 動物の飼育環境は自分たちの部屋と同じであり、餌や飲み水についても自分たちと同じように新鮮なものを用意することが大切だと学ぶことができました。